

橋脚工事の現場見学

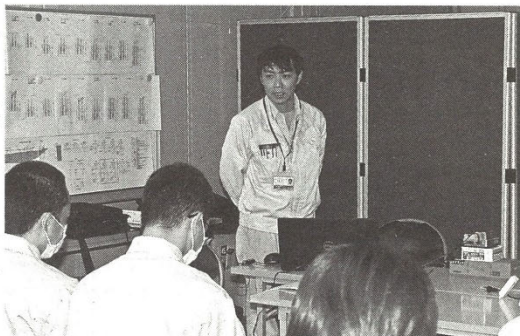
新々富士川橋で「どぼくらぶ講座」

県は28日、学生に建設産業への理解を深めてもらうための「静岡どぼくらぶ講座」を富士市、富士宮市内で開いた。静岡農業高の2年生28人が参加。仮称・新々富士川橋の建設現場の見学をはじめ、白糸ノ滝や県富士山世界遺産センター周辺の整備現場、中之郷の川坂沢砂防堰堤(えんてい)などを見て回り、土木の重要性や仕事のやりがいなどを学んだ。

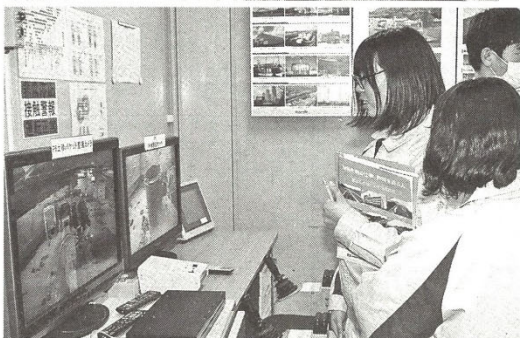
このうち新々富士川橋建設事業の現場見学では、現場担当者の大豊建設名古屋支店富士川橋ケーソン作業所監

理技術者の渡邊洋介さんが、橋を支える下部工(橋脚)の工法や施工管理で大切なことなどについて伝えた。

新々富士川橋は地上で造った構造物を地下へ沈める「ニューマチックケーソン工法」を採用している。耐震性に



橋脚の工法を説明する渡邊さん



作業現場を映したモニターを見る生徒たち

優れ、エツフェル塔やレインボーブリッジなど、さまざまな用途や場所に対応できる。

モを取ったり、質問をして理解を深めた。作業の様子を映し出したモニターを興味深そうに観察していた。

県富士土木事務所企画検査課の太田智久さんは「現場を見学し、交差点、砂防ダムなどの公共インフラが人々の生活を裏から支えていることを知ってほしい」と期待した。

渡邊さんは「構造物を地下に沈めると地下水が浸入してくるので、圧縮した空気を送り込んで排水する。地上と同じような状態で掘削や沈下の作業を繰り返して、橋脚を造る」と原理を説明。一方、「通常より気圧が高い空間のため、1日の作業時間が限られる。地上に戻る際には体を慣れさせるため、カプセルに入って徐々に減圧を受ける」といった制限もあると説いた。

新々富士川橋の概要や完成イメージ図などを解説。「周辺道路の渋滞を緩和し、観光や産業の活性化も期待される。災害時の輸送ルートとしても活用する」などと目的を紹介した。

白糸ノ滝や県富士山世界遺産センター周辺の整備の現場では、信号機のない環状交差点(ラウンドアバウト)や景観美化のための無電柱化の様子を見て回った。

その上で、「施工の際には作業中の安全管理、強度を保つための品質管理、出来形管理、工程管理、原価管理などを徹底している」と話した。

川坂沢砂防堰堤では高さ11・5メートル、幅45メートルの砂防ダムを見学。施設は土石流や川底、川岸の浸食を防ぎ、住民の命を守る大切な役割があると学んだ。

生徒たちは熱心にメモを取ったり、質問をして理解を深めた。作業の様子を映し出したモニターを興味深そうに観察していた。

新々富士川橋の概要や完成イメージ図などを解説。「周辺道路の渋滞を緩和し、観光や産業の活性化も期待される。災害時の輸送ルートとしても活用する」などと目的を紹介した。